

I 練習日程

月	日	時 間	会 場	備 考
3月	29日(日)	PM 7~9時	旭市公民館	
4月	5日(日)	"	"	
	12日(日)	"	"	
	19日(日)	"	"	
	25日(土)	"	"	

II 旭混声合唱団 & 稲沢ささか合唱団 ジョイントコンサートの報告

当日は立ち見もあるほどの満席で、どの人からもいい評価をいただきました。その中からピックアップいたします。

- ・感動した。特に「ふるさとの」
- ・心が洗われるような思いがした。
- ・「よかったですよ!!」いつも150人位で歌っているのが本来の合唱とはこういうのかもと思いました。
- ・とてもさわやかな歌。ささかさんは言葉がよく聞こえハーモニーがよかった。
- ・合唱団の暖かさを感じられ、松井先生は幸せな指揮者だと思った。

ほかより

コンサートの成功おめでとうございます。又、即招待頂きありがとうございます。指揮者とピタッと息が合い、素晴らしい合唱でした。

特に気持ち良さそうに歌って見える様子がひしひしと感じられました。

今後の貴団の即発展をお祈りいたします。

あけぼの合唱団 請園 太

- ・年のせいか、力強い歌やきれいな歌は段々嗜好が合わなくて諦念の味付を好むのか、六つの子守歌、12は感銘しました。

III 指揮者 中村貴志先生を紹介します

この3月に愛知県立芸術大学を卒業されたばかりのもっとも若い指揮者です。又、指揮者として大変な勉強家で、高校も顧問の先生にしばらくすることなく学生に自由に指揮をさせてくれる千種高校を選んだほどです。次回(3月29日)から指揮をいたします。どうぞよろしく

IV 新入団員紹介

ベース 中島 一彦 さん
ソプラノ 大澤 あさ子 さん
森田 美智子 さん
アルト 立木 みどり さん
タッギ



よろしく!!

うれいマ〜

テニスコ場より

4月5日(日)

12:30~14:30

旭市公民館

4月12日(日)

12:30~14:30

旭市公民館

参加費100円

V コンサートのご案内

4月1日(水) レクチャーコンサート 会場: 愛知聖ルカ教会

昼の部 1:30~3:00 入場料 3000円(茶菓子付)

夜の部 7:00~8:30

4月4日(土) 名フィル団友会サロンコンサート 会場: カワイ名古屋ショッポ2階

開演: PM 5:30

賛助出演者 Pt 石川ひとみ

入場料: 1000円

VC 古沢 渉

4月18日(土) シュベルト・ミサ連続演奏会 No.2 会場: 春日市民会館大ホール

開演: PM 6:30

瀬戸市合唱団、西春コーラルミエ

入場料: 1000円

ニュータウンエコー、高蔵寺ニュータウン女声合唱団
の合同演奏

5月14日(木) フルト・デュオ・リサイタル 会場: ザ・コンサートホール

開演: PM 7:00

フルト 大海隆宏 大海輝子

入場料: 3000円

ピアノ 石川ひとみ

5月26日(火) 小林伊津子ピアノリサイタル 会場: ザ・コンサートホール

開演: PM 7:00

ピアノ伴奏 石川ひとみ

入場料: 3000円

旭混声合唱団 平成9年度活動総括 1998年3月14日

この一年は指揮者の交替、主要団員の退団等、多難な中でのスタートでした。役員やスタッフの人達だけへ団の仕事が集中しないように、全員が何かの仕事をもち分担し合っ
て団運営に当たってきましたが、皆様のご協力で非常に良かったと思います
積極的な参画意識と練習への取組姿勢に真剣さが生まれてきたと思います。このことは
松井先生や石川先生のお力添えがあってことは当然ですが、皆で力を合わせた結果です
ジョイントコンサートを大成功に導き、30名を超える合唱団に成長しました。今年も
また指揮者の交替となりますが若手の中村貴志さんを迎え、ピアニストには石川ひとみ
さんに引き続きお願いします。

	主 な 出 来 事	出 席 者	練 習 曲
4月	海上の森へハイキング (4/19)	6(日) 17名 13(日) 21 19(土) 19 27(日) 24	花 平城山 Agnus dei
5月	ソプラノ 藤田美左紀さん 中沢佳代さん 入団	11(日) 22 17(土) 26 25(日) 23 31(土) 26	花 平城山 Agnus dei ふるさとの
6月	団運営の仕事を団員がそれぞれ 分担して行うこととし、各担当者 が来る	7(土) 23 15(日) 23 22(日) 21 29(日) 23	ふるさとの 花 平城山 合唱讃歌
7月	各担当者の活動開始	6(日) 25 13(日) 25 19(土) 24 27(日) 19	合唱讃歌 平城山 ふるさとの 花 四季の歌
8月	特練 9日(土) 13:00~16:30 10日(日) 13:00~16:30 9日夜、計画していたパーベキュー 大会が台風のため 順延となる	3(日) 26 9(土) 26 10(日) 23 16(土) 21 24(日) 23 31(日) 25	四季の歌 ふるさとの 信濃の秋 ①②③ 合唱讃歌 花 平城山

	主 な 出 来 事	出 席 者	練 習 曲
9月	9月28日(日) 津軽戸合唱フェスティバル 合唱讃歌 ふるさとの 平城山 花	7(日) 21名 13(土) 26 21(日) 27 27(土) 26 28(日) 28	合唱讃歌 平城山 四季の歌 信濃の秋 ①②③ 花 ふるさとの
10月	松井先生のドイツ留学(98 4月)が決定。 それにともない ミニコンサート企画を検討。 エンセルホール(2月22日)を予約 六つの子守歌を送曲する	5(日) 20 12(日) 24 19(日) 22 25(土) 26	信濃の秋 ①②③ 四季の歌 六つの子守歌より ①風の子守歌
11月	稲沢さんか合唱団とのジョイント決定 実行委員決まる 実行委員長 早沢信昭 演奏会費用のため 各人より2000円有徴収 11月9日(日) 尾張旭市民音楽祭 合唱讃歌 指揮 早沢信昭 四季の歌 信濃の秋 平城山 女声は新調は青いドレス ソプラノ12 福地智子さん 後藤恵さん 入団	1(土) 21 8(土) 27 9(日) 28 16(日) 23 23(日) 26 30(日) 26	四季の歌 合唱讃歌 信濃の秋 ①②③ 平城山 風の子守歌 空と海の子守歌 思い出の子守歌 いつたの子守歌
12月	稲沢さんか合唱団との打ち合せ(12/24) 練習時間 7時~9時30分(11月16日から) をさうじ パート特練として 6時~7時行う	6(土) 24 14(日) 22 21(日) 25	六つの子守歌 ①②③④
1月	特練 15日(木) 6:00~7:00 パート 7:00~9:30 演奏会のお知らせ	11(日) 27 15(木) 27 18(日) 28 24(土) 24	六つの子守歌 ①②③④⑤⑥ 信濃の秋 ①②③ 川の流れるように
2月	特練 1日(日) 1:30~9:00 11日(水) " 2月22日(日) ジョイントコンサート(満席) オステジ 稲沢さんか 2 " 旭混声 3 " 稲沢さんか 4 " 旭混声 ハースに 中島一彦さん入団 森田美智子さん見学(4月より入団)	1(日) 28 8(日) 26 11(水) 29 14(土) 28 21(土) 31 22(日) 31 28(土) 20	合唱讃歌 信濃の秋 ①②③ ふるさとの 平城山 花 組曲「六つの子守歌」 川の流れるように 花にまかせてよ「たんぽぽ」
3月	ソプラノに 大澤あさるさん アルトに 立木みどり さん入団 3月14日 総会及び松井先生送別会 出席者	8(日) 26 14(土)	花にまかせてよ「たんぽぽ」

旭混声合唱団稲沢さざんか合唱団
ジョイントコンサート収支決算報告

収 入		支 出	
旭混声拠出金	1 4 1 , 4 1 2 円	エンゼルホール	6 3 , 0 0 0 円
さざんか拠出金	7 2 , 0 0 0 円	使 用 料	
		調 律 代	2 2 , 2 0 0 円
		印 刷 費	4 1 , 1 0 0 円
		通 信 費	1 2 , 0 0 0 円
		花 束 代 (4 個)	2 1 , 0 0 0 円
		昼食代 (指揮者応援者分)	1 1 , 2 1 0 円
		打上会補助 (応援者他)	3 0 , 0 0 0 円
		写真代 (指揮者応援者分)	9 , 2 0 0 円
		雑 費	3 , 7 0 2 円
合 計	2 1 3 , 4 1 2 円	合 計	2 1 3 , 4 1 2 円

(注)

- 1 総支出額からさざんか拠出金を控除した残額を旭混声が拠出した。
- 2 調律代には、振り込み手数料 1 0 5 円を含む。
- 3 印刷費は、プログラム、ちらし、チケット等の印刷費 (用紙代を含む) 。
- 4 通信費とは、関係者、関係団体、応援者等への案内状および礼状に要した切手代。
- 5 花束代は、指揮者×2、ピアニスト×2の計4個分。
- 6 昼食代、打ち上げ会補助、写真代は、いずれも指揮者、応援者分である。なお、団員分についてはそれぞれ個別に徴収、精算した (報告省略) 。
- 7 雑費は、ウーロン茶、紙コップ、ベニヤ板 (ヒナ壇化粧用。なお、ヒナ壇本体は松本団長の手製。) 等の費用。

以上のとおり、報告します。

旭混声合唱団稲沢さざんか合唱団ジョイントコンサート
会計担当 波多野 陽子

平成10年3月14日

この一年を振り返って

技 術 委 員 長

ジョイントコンサート実行委員長

1 選曲について

(1) 前半

本年度当初は、コンサートの計画もなかったため通常の練習用の選曲を行った。選曲にあたっては、先生に対し次のような要請をしました。

- ① 団員は、ブラームスの愛の歌で苦勞したところからドイツ語アレルギーにかかっているの、しばらくの間は、日本語の歌にしてほしい。
- ② 旭混声の団員は、どちらかというと情緒的、ムード的な歌を好む傾向があるので、歌詞については、できればストーリー性のあるものか馴染みのあるものが喜ばれると思う。
- ③ リズムがあまり難しいと練習に苦勞するので、できればリズム的にやさしい曲が望ましい。

要するに、楽にハモレるような曲を選曲して、合唱は苦しむものでなく楽しむものであることを実感してもらいたいと考えて、以上のようなお願いをした次第である。

その結果が、「花」を始めとする平井康三郎作曲編曲集であった。

団員の中には、えらく古めかしいと感じられた人がみえるかもしれないが、このような経緯から先生に選曲していただいたものであり、ご了承願いたい。

「花」や「合唱讃歌」については、予想以上に、てこずったというのが実感である。

また、「信濃の秋」については、日頃、ピアノ伴奏のある曲ばかりでア・カペラをあまりやったことがなかったため、ややもするとピアノに頼った歌い方の癖がついてしまっていると思われたので、他のパートの声も絶えず聞きながら歌うことと自分の音、リズムを確実にとる練習のために、先生にお願いして採用してもらったものである。

(2) ジョイントコンサート関連

「風の子守歌」は、松井、石川両先生のご推薦で、メロディーとハーモニーが美しく、かつ比較的やさしい曲として選曲されたものである。

にもかかわらず、リズムに乗れず先生方をさんざん悩ませることとなったのは、技術委員長を始めとするリズム音痴のなせる技と思うほかなく、技術委員長として大いに恥じている。申し訳なし。

ただ、本番での演奏は、練習における苦しみに比べ予想以上に上手に演奏できた

と思っている。その最大の理由は、松井、石川両先生のご尽力によるものではあるが、団員サイドとして考えられるものとしては、絶対の自信がないためによく指揮を見て慎重に歌ったからではないかと思っている。

たまたま、それぞれの曲が比較的 p、p p、m p が多く、全体に音量を抑える必要があったためにボロが出にくかったというのが真相ではあるまいか。その証拠に第2ステージは何度か歌ったことがある曲ということで、妙な自信があったためか必要以上に声を張り上げてしまい、結果的にあまり褒められた演奏ではなかったと思う（同じ第2ステージでも、大きな声を出す必要のなかった曲はボロが目立たなかった）。

要は、「風の子守歌」の成功は、団員の謙虚さによるものと考える。

しかし、それだからといって今後は f、f f があまりない、おとなしい曲ばかりを選曲するという訳にもいかないので、技術委員長としては皆さんの謙虚さ、自制心（音量をコントロールする努力）の発揚（？）を期待したい。

2 練習内容について

（1）時間数、回数

コンサート計画が決定して以来、通常練習前のパート別特練、通常練習時間帯の延長、特別練習日の追加など練習時間数、回数とも大幅に増加させた。

これが実行できたのは、ひとえに両先生のご尽力によるものであり、深く感謝している。とりわけ松井先生には、肉体的精神的にご負担をおかけした。リズム感の悪さでご迷惑をおかけしたことをお詫びするとともに厚くお礼申し上げる次第である。

また、驚異的な出席率でこれに応じた団員の努力にも感謝している。

さらに、毎回早く会場に来て机や椅子などの準備をしてくれた団員、お茶の準備や手製のケーキなどを差し入れてくれた団員、特別練習日を楽しい雰囲気にするために何かと考えてくれたリクレーション係の方々などにも感謝したい。

このような細かな気遣いによって厳しい練習も楽しいものとなり、その結果として練習の内容、成果が一段と高められたと思っている。

（2）技術面

まず、発声については、先生から以前と同じ注意を受けており、その点が今後の課題として残されている。

いわく、地声を出さない、響きを明るく、口のなかをもっと広く開けて、テンポが少しずつ遅れる、ビブラートを抑えて、声を張り上げないなどなど。

各パート毎の批評めいたことをするつもりはないが、一言だけ私見を述べれば、数年前に比べてソプラノの成長が著しいことである。これは、ひとえに松井先生のご指導の賜物と思うが、各人の努力も相当に寄与しているものと推測する。

時々気が緩むのか、平たい安っぽい声が聞こえることがないではないが、前述のような謙虚さ、慎重さをもって臨めば解決されると思われる。期待したい。

他のパートも含めて一層の努力をしていきたい。

3 ジョイントコンサートについて（実行委員長として）

（１）企画面

今回の稲沢さざんか合唱団とのジョイント方式による演奏会は成功だったと評価している。

この方式が採用できたのは、稲沢さざんか合唱団さんの協力があったことで大いに感謝しているが、本当のところは、松井先生のお人柄によるのではないかと思っている。

他の人であったなら、はたして今回と同じように円滑に展開したかどうかはきわめて疑問である。二つの合唱団の松井先生を慕う気持ちが、ピッタリ一緒になったからこそ可能となったのではなかったかと思えてならない。

コンサートの成功も実は松井先生のお蔭であって、我々の貢献した部分は意外に小さいのかもしれない。

当日会場に来られた人から、「演奏の内容よりも、指揮者と団員との関係が非常に良い雰囲気を出していて、聴いていてもすごく好ましく感じられた。それが印象的でした。」との感想を伺った。我々の心のうちは傍から見ても分かったようです。アマチュア合唱団の良さはここにありの感を強めました。

（２）運営面

ちらしの作成、PR、衣裳、会場設営、会計、さざんかさんとの調整、打ち上げ会などなど、全団員が、それぞれの係に分かれてそれぞれの任務を確実に遂行して戴けたお蔭で無事終了できました。各係の人々の奮闘ぶりについては一々申し上げることはしませんが、深く感謝いたします。

演奏会のようなイベントは、全員の協力なしには完遂できませんから、ある意味ではその合唱団の実力がストレートに顕れることとなります。お蔭様で、この点でも旭混声合唱団として恥ずかしくない演奏会であったと思っています。

実際の運営は、ステージマネージャーとしてお願いした加藤洋太郎氏を始めとする演奏会運営のベテランである支援者の方々に委ねました。

この中には、かつて我々と一緒に歌ったことのある吉岡さんや閑林さんなども見えましたが自発的に協力を申し出て戴けたとのことであり大変嬉しく思いました。

このように、演奏会の開催に当たっては多くの方々のご協力を戴きましたが、これらの方々にお問い合わせできる団員がいることも、我々合唱団の人的財産であろうと思います。

結局、口ばかりの実行委員長を皆さんで助けて戴いたこととなります。ありがとうございました。

特に、帰りの遅い亭主の迎え、松井先生の結婚式の仲人、コンサートの準備などで東奔西走しているときにご親戚のご不幸があったりして、精神的にも肉体的にも負担がかかり過労のため一時倒れてしまった（つい最近まで知らなかったことです）松本恵美子さんにはお礼の申しようがありません。

なお、目立たないところでの尽力として、松本義明さんによるヒナ壇の製作、中畑チズ子さんによる立て看板の書、井上喜弘さんによるヒナ壇の輸送と立て看板の手配、林夫人による弁当の手配などがあります。いずれもささいなことで、実は結構面倒な仕事です。ありがとうございました。

(3) コンサート総括

エンゼルホールの定員は361席、これに対し当日の入場者は357人でした(受付でのプログラムの配布部数でカウントした)。

すなわち、ほぼ満員の状態でした。

前の方の席にはチラホラ空いている席もあったため、後ろの方では立ち見が出るほどの盛況でした。

演奏会を催して悲しいことは、観客の少ないことであり、逆に嬉しいことは会場が観客で一杯になることです。皆さんのご努力により、最も重大な課題をクリアすることができました。ありがとうございました。

旭混声合唱団の創立10周年記念コンサートはいろいろな事情から実施できずに来ておりましたが、今回、ジョイントコンサートという形を変えた格好で実現できたことを素直に喜びたいと思います。

今回のコンサートは、団長挨拶にもありましたように、何分にも急な企画でしたので不安はありましたが、皆さんのご協力により無事終了することができました。

旭混声合唱団としては、過去、単独開催、共催を含め何回かのコンサートを経験しておりますが、これらと今回の違いを述べれば、次のような事柄があげられると思います。

① 演奏が団員のみによるものであったこと。

これまでは、本番間近になるとプロ、アマチュアの違いはあれ急拠何人かの応援を仰いで帳尻をあわせるパターンが殆どであった。

このパターンでは本番の演奏で好評を博しても、下駄を履かせてもらって合格させてもらったようなものですから、団員の気持ちは何かスッキリしないものが残りがちでした。

そのため、執行部としては前の指揮者の頃から、結果がどうであれ、自分達の正味の実力で演奏したい(本当の姿をさらけ出したい)旨お願いしてきましたが、いつも土壇場になるとそのような恥ずかしい演奏は出来ないとの声に負け、やむなく応援を受けてその場を繕ってきました。

今回は松井先生から一度も応援の要請を受けませんでした。内心は、心配で仕方がなかったと思いますが、我々の希望を理解して戴けたものと思っています。

② 若い人が増えたこと

松井先生になってから、指揮者の若さにひかれてか若い人が増え、最近の各合唱団の共通の悩みである団員の老齢化が、旭混声合唱団ではやや緩和されて

きている。

若い人が増えることによって、合唱団の雰囲気は若やぐ、華やぐというメリットがあるほか、ハーモニーの音色そのものにも微妙に影響して、明るい響きが増すという大きなメリットがある。その意味において大いに歓迎すべきことである。

合唱は、本来年齢に関係なく楽しめるというところに特長があったはずであるが、最近では若者の合唱離れの傾向が強く、年寄でなければ合唱団に入団できないと錯角をしかねないくらいである。それだけに我々は大変恵まれているといえよう。

我が団の末松君は、転勤のため現在は岐阜県揖斐川町に住んでいるが、移住後も遠路はるばる尾張旭まで練習に駆け付けてくれたものであり、松井先生の秘蔵っ子という事情を差し引いても、その熱意には頭が下がる。

また、パート練習の指導を担当してくれた中沢さんは、いつも2児の世話をご主人に頼んで（正確には、押し付けてなのかもしれない）練習にきてくれたのである。まずは理解あるご主人に合唱団からお礼を申し上げたい。

さらに、交替勤務のため土日の参加がままならず、仕事と合唱練習の明け暮れに娘の健康を気遣う親御さんからは、すぐに合唱を止めよといわれながら寸暇を惜しんで練習に駆け付けてくれた福地さん、仕事やデートを放り出して旭ヶ丘公民館に通い続けた藤田さん（飲み過ぎに注意して下さいね）にも敬意を表します。

③ お金をあまりかけなかったこと

今回のコンサートは急であったことから、過去の例とは違い、入場料はとらない、広告も担当する人に過大な負担をかけるので止める等の方針で臨んだ。

その結果、収入が大幅に減ることとなったが、これを各担当の皆さんの工夫により支出を削減することができ、最終の仕上がりとしては赤字にならずに済ませることができた（本来なら、早急に詳細の会計報告をなすべきであるが、事情があって総会で報告ができない。追って報告させていただくことでご容赦願いたい。）。

団員負担をできるだけ少なくするため、長谷川紀夫さんは、ちらしやプログラムの印刷費を軽減すべく原稿の編集、印刷・製本方法に工夫を凝らし、借りるとべらぼうな賃料を取られることが分かったヒナ壇は、松本義明さんが工場の廃材を活用して製作（本音をいうと、日曜大工の腕前がどこまで信用できるのか疑問があり、強度が心配であった。皆さんの体重がみかけ（？）よりも大変軽かった（！）ために杞憂で済みホットした。）し、男声の衣裳も立派な女声にあわせるべきとの声に応じて井上喜弘さんが、瀬戸市民合唱団から一括ユニホームを借りてきてくれ、打ち上げ会担当の中畑義弘さんは、差し入れて頂戴した物は持ち込み出来るようにお店と話をつけ、酒屋で購入したビール、ウイスキーの箱にわざわざ熨斗紙をかけて持ち込むなど、いろいろと費用の削減に工夫を凝らしてもらった。

中畑さんの手の込んだやり方に、身内の私がひっかかってしまい、熨斗紙に書かれてあった名前を信じて、打ち上げの席でご紹介することを忘れたと翌日大慌てで贈り主と覚しき方にお礼方々お詫びの電話を差し上げてしまった。中畑さんの普段の様子からは窺うことのできない一面であり、今後一旦は眉に唾付けてから行動することとした。

なお、熨斗紙の表はきちんと美しく筆字で書かれていたので、同夫人が関与したことは間違いないものとみられる。正直者（うかつ者？）の私は、喫茶シルビアとともに中畑夫婦にすっかり騙されたことになる。

最後に、松井先生にご指導して戴いたご恩をお返しするのは、我々が今以上に努力して再びご指導を戴いたときにその進歩を確かめてもらうことではないかと思ひます。なかなか大変なことではありますが、皆で力を合わせて進みたいと思ひます。

以 上